

電子ジャーナルバックファイル購入による書架スペース確保の事例

大瀬戸貴己*

奈良県立医科大学附属図書館

I. はじめに

奈良県立医科大学附属図書館（以下、当館）では、2010年の1月から4月にかけて、電子ジャーナルバックファイル（以下、バックファイル）でカバーされる当館所蔵洋雑誌を廃棄し、書架スペースの確保につなげ、資料の移転を行った。当館初の試みであるバックファイル購入による資料の廃棄、および移転について報告する。

II. 当館の概要

奈良県立医科大学は医学部のみの単科大学であり、医学科と看護学科がある。

当館はもともと医学科の図書館であり、看護学科には看護系資料を中心に揃えた附属図書館看護学科分室（以下、分室）が看護学校舎にあったが、2005年に資料を当館に移し閉室した。その際、学内のサービスは当館に一本化された。以後分室は1950年発行以前の単行本、重複雑誌、利用頻度の少ない雑誌を保管する書庫として利用していた。

III. 作業までの経緯

2010年度より分室が学生用のフリースペースとして利用されることになったため、2009年度中に分室を明け渡すことになり、資料だけでなく書架やカウンターなどすべて運び出さなければならなくなった。分室に保管していた資料はそれぞれ、利用の少ない雑誌を当館へ移転、1950年発行以前の単行本を屋外倉庫で箱詰め保管、重複雑誌は廃棄を前提に看護師寮の空室に保管することになった。書架は利用できるものをいくつか当館へ移し、残りはカウンターとともに屋外倉庫へ保管することになった。

分室資料を当館へ移転するにあたり、移転先である書

庫（1層に洋雑誌、2層に和雑誌・単行本・WHO関連資料・二次資料を保管）にスペースがほとんどなかったため、資料を廃棄し、スペースを確保する必要があった。当館では2009年の急激な円高による予算の余剰で、体系的にもれなく収集でき、かつ買い取りであるということからバックファイルを購入していた。そのバックファイルでカバーされる雑誌を廃棄することが学内の承認を得たため、書庫1層の製本雑誌を廃棄し、書架スペースの確保につなげ、資料の移転をすることとなった。これを機に、当館図書除却要項（除却の決定基準）に「買取等により永続的に利用が保障された電子ジャーナルの当該発行年分又は電子ブックと同一内容のもの。」という項目を盛り込んだ。

IV. 対象

2009年度に購入したバックファイルのうち、当館に該年度の製本雑誌を所蔵している77誌（6パッケージ、全3,200冊）を廃棄対象とした（表1）。

表1. 電子ジャーナルパッケージ別廃棄製本冊数

電子ジャーナルパッケージ	タイトル数	冊数
SpringerLINK Online Journal Archive	58	1,610
LWW Journals Definitive Archives	12	836
APS Journal Legacy Content	4	582
International Journal of Cancer Back Files	1	70
Psychiatry Legacy Collection	1	52
Journal of Clinical Oncology Legacy Archive	1	50
全体	77	3,200

V. 作業

当館スタッフ全5名と、作業スタッフとして臨時で1名増員し、6名体制で各作業にあたった。

1. 作業スケジュール

作業は2010年1月から4月の4ヶ月をかけて行った（図1）。

*Kimi OSETO : 〒634-8523 奈良県橿原市四条町840番地。
Tel.0744-23-9981 Fax.0744-23-3273 oseto@naramed-u.ac.jp
(2010年1月28日 受理)

	1月	2月	3月	4月
廃棄リスト作成	→			
製本廃棄		→		
分室運び出し			→	
書架調整・組み込み				→

図1. 作業スケジュール

2. 廃棄資料リスト作成

廃棄対象誌には当館図書館システムへのデータ未登録のものが含まれていたため、システムからリストを作成できず、目録カードから製本巻号と登録番号を挙げ、リストを作成する作業をスタッフ2名で行った。

3. 製本廃棄

supplementの有無を確認後、蔵書印の消印・装備の解除をし、書庫の空きスペースへ積み上げた。週に2回図書館前に廃棄用のカゴを用意してもらい、積み上げた製本雑誌を順次カゴへ積み込んだ。積み上げまでは3名で、カゴへの積み込みは4名で行った。

4. 分室からの運び出し作業

3月下旬より分室の改装工事が決定していたため、それまでに分室資料および書架運び出し作業を完了させなければならず、3月8日から12日の5日間は他の作業を一旦中断し、分室からの運び出し作業に専念した。

書架の連ごとに番号を振り、当館書庫へ移転するもの、屋外倉庫で保管するもの、看護師寮へ運ぶものを番号で判別し、それぞれの保管場所へ運び出した。移転資料は当館書庫の書架間スペースに一旦仮置きした。およそ90連分の資料の運び出しが終わった後、書架やカウンターの運び出し作業に移った。書架は分解し、廃棄するものと当館で使用するものに分け、運び出した。カウンターは分解できず、そのまま屋外倉庫へ運んだ。

作業期間中も当館は通常どおり開館していたため、通常では5名が入れ替わりで担当するカウンター業務を2名で行い、残り4名で作業にあたった。

5. 当館書庫作業

分室資料の組み込みができるよう、廃棄によってできたスペースを調整する作業から始めた。アルファベット順に並んでいる雑誌のうち、AからZまですべての範囲での調整が必要であった。3週間ほどで調整作業を

完了させ、資料の組み込みに移った。その際書庫2層のWHO資料と二次資料を書庫1層に移動させ、書庫2層に84段ほどのスペースを確保した。書庫1層の組み込み作業完了後、書庫2層も同様に調整し、資料を組み込んだ。

作業は3～4名で入れ替わり、1日2～4時間ずつ行った。

VI. 結果

書庫1層の製本雑誌3,200冊を廃棄し、160段分の書架スペースを確保した。これは洋雑誌の配架場所である当館書庫1層全体(2,600段)の約6%に相当する。分室の洋雑誌を移転するためには120段の書架スペースが必要であり、当初当館書庫1層には39段しか書架スペースがなかったが、今回の廃棄作業によって資料移転に十分なスペースを確保し、分室資料を無事当館書庫1層へ移転することができた(図2)。

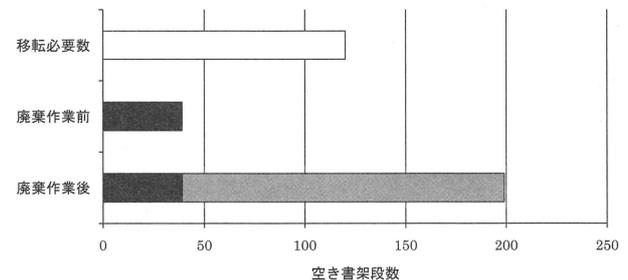


図2. 作業前後の空きスペース変化

VII. 考察

1. supplementを含む製本

電子ジャーナルでは、通常号は利用できるがsupplement(別冊、増刊)まではカバーされていない場合がある。そのため、supplementに関してはバックファイル該当年というだけでは単純に廃棄を決定できない。各supplementが電子ジャーナルでカバーされているかを確認してから廃棄すると時間がかかりすぎるため、今回supplementを含む製本273冊は廃棄の対象としなかった。

2. 電子ジャーナルの不具合

電子ジャーナルはパッケージによって質にばらつきがある。バックファイル該当年の雑誌論文であっても、電子ジャーナルへの収載方法が誤っているため利用できないものがいくつかあった。実際にあった不具合は以下の通りである。

1) 前の論文の続きに収載

目的の論文が直前の論文とまとめて1論文として収載

されていたため、論文の見出しには目的の論文のタイトルは出ていなかった。

2) 全論文が収載されていない通常号

ある通常号では前半のいくつかの論文のみが収載され、後半の数論文は収載されていなかった。

3) supplementが1論文として収載

通常号とともにsupplementも利用できる電子ジャーナルにおいて、他のsupplementは巻号一覧に1号として収載されていたが、あるsupplementは1論文として通常号の最終ページに収載されていた。

VIII. 結論

今回の作業ではsupplementを含む製本雑誌を廃棄の対象外としたため、当初見込んだ冊数よりも実際廃棄した製本冊数はやや減少した。とはいえ、限られた期間と人員で分室資料の移転を無事完了することができたという結果を見ると、バックファイルの購入により資料を廃棄し、書架スペースの確保に繋がったことは有効だったといえる。

また、通常業務と平行しながら今回の作業を期間内に完了することができたのは、作業要員としてスタッフを1名増員したことが大きな要因である。おのおのが複数の業務を抱えながら今回のような作業をするには作業に従事できる時間が限られるため、作業を専任するスタッフ

がいなければこのような廃棄・移転作業はできなかった。

IX. 現状と今後

以前は窮屈だった書庫1層は、今回の廃棄作業によって各雑誌の間にスペースができ、資料を利用しやすくなった。それに比べると、書庫2層にはあまりスペースに余裕がない。これは書庫2層が主に和雑誌を配架していることに関係している。書庫1層で配架している洋雑誌については、電子ジャーナルでの購入が主流となっており、冊子体が増えることは寄贈や重複交換によるものぐらいである。対照的に書庫2層の和雑誌については、冊子体で受け入れているものが多数である。これは商業出版者による和雑誌の電子ジャーナル化が遅れていること、また、電子ジャーナル化されていても価格が高いことによる。このため、和雑誌については近年急速に普及している機関リポジトリに注目し、当館図書除却要項(除却の決定基準)に「機関リポジトリ等を通じて電子的に一般公開されているもの。」を盛り込んだ。今後は和雑誌についても洋雑誌と同様に廃棄していく方針である。

本稿は第27回医学情報サービス研究大会(2010年8月21～22日 いわき明星大学)でポスター発表した内容に加筆修正をしたものである。

Creation of Space through the Disposal of Journals Included in Electronic Journal Back-files

Kimi OSETO

Nara Medical University Library, 840 Shijocho, Kashihara-city, Nara 634-8523, Japan

Abstract: This article reports on the creation of space through the disposal of journals included in electronic journal back-files. Nara Medical University Library had a detached stack to keep journals that were rarely used, such as books published before 1950 and duplicates of journals included in the main library. In January 2010, a decision was made to move the detached stack's rarely used journals by April 2010 so that the stack could be used in another way. Books published before 1950 and duplicates of journals already in the main library were disposed. The disposal work was undertaken because Nara Medical University decided to dispose of journals included in electronic journal back-files that the university had purchased as part of a surplus budget in 2009. A new staff member was

employed for this work. In total, 120 shelves were required to move foreign journals from the detached stack to a stack in the main library. In April 2010, except for journal bindings including supplements not included in the back-files, 3200 journal bindings were disposed and 160 shelves were emptied. Because of the disposal work, the journals in the detached stack could be moved and kept in the main library. This result suggests that the disposal of journals covered in electronic journal back-files is an effective means of creating space.

Key words: Electronic Journal Back-files; Disposing Journals (*Igaku Toshokan*. 2011;58(1):43-45)